分野別研究組織中間報告（2009 年度）

多文化共生型の識字・日本語教室活動のあり方に関する研究

A Study on the Development of Japanese Language and Literacy Classes in a Multicultural Society

新矢 麻紀子（SHIN'YA Makiko）

日本では、ニューカマー人口が増加しており、そのうち、留学生のように大学や日本語学校で日本語教育を受ける機会が得られない結婚移住者や労働者にとっては、日本各地域の市町村や国際交流協会で開催されている地域日本語教室が貴重かつ重要な日本語学習の場となっている。

報告者は、これら地域日本語教室で現場調査を行い、その運営や学習支援活動のあり方について研究を行っている。2009 年度は、大阪府枚方市社会教育課主催・生涯学習課補助執行の「日本語・多文化共生教室『よみかき』」（市内 6 教室）、大阪府堺市教育委員会主催の「堺識字・多文化共生学級『つどい』」、大阪府豊中市（財）とよなか国際交流協会主催の「とよなかにほんご」にて現地調査（参与観察や教室関係者への聞き取り）を行った。また、それらの知見をもとに、『よみかき』で新人日本語ボランティア養成研修、『つどい』で日本語講師(現職)研修を実施した。さらに大阪府以外においては、島根県で、日本語教室のネットワークづくりを行っている国際センター職員や教室運営を行っているボランティアに教室運営や教室活動の実態や課題について意見を聞いた。また、愛媛県愛南町では、愛媛大学教員とともに臨時漢字教室を開催し、参加学習者の参与観察とリテラシーに関する聞き取り調査を実施した。

上記の研究成果は、「識字・日本語教室の変革における教室理念の再構築」（2009 年度日本社会教育学会第 56 回研究大会研究発表）、「地域日本語支援にかかわる人材をどう育てるか」（シンポジウム『これからの地域日本語教育を考える！』浜松学院大学、(財)浜松国際交流協会、(社)日本語教育学会「多文化共生社会における日本語教育研究会」主催）にて報告を行った。

2010 年度も、引き続き、上記調査を実施している。特に、2010 年度は、教室主催者側の職員、日本語ボランティア、そして日本語学習者への聞き取りを行うためのフィールド調査を計画している。そして、それらの調査結果を、執筆準備中の論文に織り込みたいと考えている。さらには、報告者が別途、共同研究を行っている言語政策研究（2007 年度より実施）や日本語指導者評価研究（2010 年度実施予定）と本研究課題をリンクした研究を試みたいと考えている。